

いずみ巣子ニュータウン自治会

1. 自治会の歴史

当団地は滝沢インターの東側に位置し西側は東北自動車道、東側は国道282号に接し、東西南北に夫々姫神山、岩手山、早池峰山、そして西岳と風光明媚な分譲地として470区画ほどに開発され、東京の新聞2面に温泉付分譲地として紹介されそれが縁で入居者も多いと聞いている。

東北自動車道が西根インター迄開通した翌日団地造成が認可され昭和58年頃より入居が始まり戸数10戸を超えた頃、町内会の必要性が談じられ最終的には南一本木自治会内のいずみ巣子ニュータウン団地会として活動を続け、入居者100戸を超える頃に独自の自治会としての声も上がり、平成11年分離独立し現在、先輩諸氏の努力で築いた自治会も会員数252戸になっている。

2. 交通安全運動

団地内には交通安全標識がない。毎朝、交通指導員の高坂美喜子、濱本殉子そして及川薫が信号付近で活動し、スクールガード・母の会も児童の見守りに徹している。12月11日ののぼり作戦には氷点下にもかかわらず12名が啓蒙活動に参加した。

3. 泉寿会の活動再開・いきいきサロンの開設

会員数30名は、雪解けとともに地域清掃、廃品回収、グラウンドゴルフ、輪投げ大会、小旅行、空地の草刈奉仕の取組など楽しさ一杯である。いきいきサロン開設により10数名が健康相談、歌や体操で若い保健師との会話も弾む。千葉和男民生児童委員の高齢者世帯への訪問等も特筆すべき活動である。

4. 待望の高速道防音壁設置

平成21年長年の陳情の末、住民配慮の一部透明防音壁が設置されたが課題は残っている。

5. 優良ごみ集積所3年連続の金賞受賞

団地内10カ所の全部が悪臭もしない清掃の行届いた集積所である。各班長はじめ掃除割当者や集積所付近の方の取組の成果である。

6. 春秋の団地内清掃には毎回200名を超える

清掃は高齢者世帯や通院者に配慮しながら200名を超す住民の参加が見られる。新入居者には鎌、草刈り機持参加には油と500円、全員に飲物これが慣例になっている。

7. 三自治会合同運動会での連続優勝

一本木小学校で行われる北、南一本木自治会との運動会では四年連続、二年連続優勝を成し遂げ、老いも若きも参加者のチームワークがなければ達成できない事である（澤田自治会長はアキレス腱断裂で救急車で搬送された）。

8. 夏祭り

全員参加で盛り上がり 毎年神輿も神社もない祭りであるが全13班全員参加の夏祭りである。焼きそば・綿あめ・くじ引き、コンニャク玉・飲物・フランクフルト・チョコバナナ・生ビールの出店に老若男女が集まり、幼児レースや玉入れ、ラムネ早飲み、日本酒銘柄当て、大抽選会450名の動員である。一本木小学校協力のさんさは大喝采だった（前年度はよきこい）。

9. 東日本大震災への対応

3月11日午後3時に自主防災会室開錠。防災放送で被災状況把握を依頼。巡回。大きな被害なし。以後3日間自家発電機をもとに役員が常駐対応。余震停電等に班長や住民の活動が顕著であった。被災地域に救援物資等とを呼びかけ26・30日2t車2台分、15万円を宮古市に届ける。

10. 今後の課題

自治会役員は2年交代制であるが、大きな課題は次期役員に引き継がれる

①中核施設の建設

団地住民には子どもたちと高齢者の増加が見られ団地中心部の保育園予定地に、一本木小学校児童半数の為のいずみ地区学童保育を設置し、幼児や高齢者支援として日当たりのよい畳の部屋のある、会員半数が会議等を行える中核施設が要望される。

②公共下水道への早期連結

いずみ美子地区の管理組合（吉田耕一理事長）の汚水処理場は平成23年度約3,000万円の工事費で改修されたが、村としての公共下水道への早期連結を強く要望する。

③防音壁の全面設置

高速道トンネル上への防音壁を早期に設置するよう要望する。

